

地震について

なぎさ小 六一二 田中 美穂

わたしは、地震の年に生まれました。とても  
然、わたしは、とても幼く、地震の記あく  
を全然おぼえていません。でもお母さんに  
とう時の話をし、と言うと、悲しい顔をし  
す。でも、すこしだけ情景を話してくれまし  
た。その時は、袖戸が黒い雲にかこまれて、  
空がとても赤か、たろうです。夕ニスは、たあ  
れ、下レビが落ちて、とてもこわかったろ

うです。わたしは、お母さんの話を聞いて  
地震がどれだけこわいかわかりました。わた  
しは、地震はいつどこであまるかわからない。  
これをみんなが知って、みんながおぼ  
えてあかないといけません。この大  
震災で学んだことは、い、ば、いあると思  
す。でも、ネパールでは、まだ、地震に弱  
家として、数々の家が残り、います。すると  
今のわたしになにかできることはなにか  
思いました。わたしは、世界を変えられるよ

な 大きな力を現地にいくこともできませ  
ん。でも、どれかの力をかりて、できること  
なら、できます。そうやって、ちよとでも  
いりから、やってみようと思えることが、  
しにできること、第一歩だと思います。